

2024年度 事業報告書

2024年4月1日から2025年3月31日

特定非営利活動法人おてらおやつクラブ

1. 事業の成果

(1) 経済的困窮者に対する食料品・日用品等物資の受入・配給事業

2025年3月末時点で、登録寺院数2,188カ寺(前年+175)、登録団体数936団体(+120)に拡大。支援家庭数は16,750世帯(+5,417)に達しました。物価高騰、特に米価格上昇の影響を受け、支援要請は増加の一途をたどっています。

2024年度は、「年1回はおすそわけを届けたい」という思いのもと、複数回受け取る家庭には夏・冬休み期間の臨時支援(計4,833世帯)に限定しましたが、外食や体験による支援を拡充しました。ブックプレゼント(1,022世帯)、フェリシモハッピーバトン(124世帯)、東海地域限定マクドナルドチケット(439世帯)など、地域ニーズに応じた取組も実施。春日井市と連携協定を締結し、自治体との協働も進展しました。

フェリシモや内海産業などからの継続的寄贈も支援基盤を支えました。おてらおやつ劇場は111回上演し、活動の広がりや文化的支援の接点を生み出しました。

(2) ひとり親家庭等の経済的自立や子どもの貧困問題に関する啓発事業

全国8カ所で「全国行脚 子どもの貧困について考えよう」を実施。活動背景や関係者の声を地域で直接伝え、対話の機会を提供しました。

2023年度 of 取組をまとめたインパクトレポートを6月に公開し、成果の可視化と評価に活用。フリーマガジン『てばなす』第8号は、応援メッセージや活動報告・会計情報を写真・グラフで紹介し、10年の歩みを記録しました。『声』冊子も発行し、支援を受けた家庭からのメッセージを通して理解と共感を広げました。

Webサイトは、株式会社デザインでの監修のもと全面改修。スマートフォン対応と回遊性の強化により、支援導線の改善を図りました。寄付チームを設置し、振込用紙同封施策などにより着実な成果を上げましたが、伝え方への再考も促される年となりました。

(3) 学習支援や居場所づくり等子どもの発達・育成に関する事業

奈良県田原本町を拠点に、子どもたちの孤立を防ぐための居場所づくりとして、学習支援(44回・延べ81名)、体験活動(13回・延べ161名)、テラマエボード(6回・延べ113名)、フリースペース(14回・延べ41名)、親子発送会(11回・延べ72名)を実施しました。学習支援では大学生ボランティアとの信頼関係を育み、体験や交流を通じて、子どもたちが安心して過ごせる場づくりを進めました。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

| 定款の 事業名 | 事業内容 | 実施 日時 | 実施 場所 | 従事者 の人数 | 受益対象者の 範囲及び人数 | 支出額 (千円) |
|------------------------------------|--|----------|--------------------------|--|-------------------|-------------|
| (1) 経済的困窮者に対する食料品・日用品等物資の受入・配給事業 | 全国の寺院を拠点に、経済的に困窮する家庭やその支援を行う団体等に寺院に供えられた食料品・日用品などを届ける。 | 随時 | ・事務所 ・全国寺院 | ・事務局7人 ・ボランティア630人 ・全国2,188寺院 ※寺院は不特定多数 | 支援家庭数 16,750世帯 | 41,583 |
| (2) ひとり親家庭等の経済的自立や子どもの貧困問題に関する啓発事業 | 講演・勉強会・執筆などを行い、ひとり親家庭等の自立問題や子どもの貧困問題についての啓発を促す。 | 随時 | ・事務所 ・その他会場 ・オンライン | ・事務局6人 | 不特定多数 | 22,442 |
| (3) 学習支援や居場所づくり等子どもの発達・育成に関する事業 | 学習支援やイベント企画を通して、子どもの居場所づくりに取り組む。 | 随時 | ・事務所 ・その他会場 | ・事務局3人 | 不特定多数 | 4,604 |